

湘友だより

「拜啓」

御無沙汰はお互様。時に如何。氣持のいい暑さが續くじやないか。今年も休暇なしつて親のプームだつてね。君のボイナスなんか聞き度くはないよ。僕だつてえへんだ。けれど夏が来ると學生はいゝと思ふね。第一諸先生の御尊顔を拝する時間が零又は零に近くなる。等と考へたのは但し僕ではない。僕は反對に一泳の淋しさを覚える。嘘ではない。すると僕が休暇を羨むのは社會人となつた今の氣持から云つてゐるのかも知れない。だが僕等の級友にも一夏海で暮して黒ん坊競争に第一位を獲得したと云ふのも居つたし、一日の勉強耐久時間をグラフにして好記録を出したほ勉強家も居た。又アルバイトに汗だくな奮闘家を君も記憶してゐるだらう。何れにしても何かに夢中になつてゐるのがいいのかな。先日も友達が寄つた時、思ひ合はせたやうに學校の方へ大分御無沙汰してゐると言つた。随りお互多忙を譯だ。忘れてゐるのではない。その折瓦が言ふには、同窓は大森汽車に乗る時、上り下りの何れにしても座席を學校が見える窓の方を取る。そして藤澤―辻堂間では皆閉せずして學校のある丘の方を見る―夜でもさうするとの事だ。言はれて見ると僕自身にも思ひ當る。このことは君だつて、安價な洋装主義だとい概に片付けやしないだらう。外國へ行つて日の丸の旗を見た時と同じだらうな。外國と云へば先日坂本先生の晴れの鹿島立ちを御見送りした。盛んだつたね。同窓も大勢居た。校友會からの大きな花束を左の胸に抱いて國のこにくらしい程團體の大きい外人を壓するやうに、上半身を斜め右に反つて、平安丸のデツキに五羽のチープに埋もれて立たれた時の先生の神姿、感激に痺く胸の隅、ガンバレでも變には驚かない思ひ通り人の學校、全く素的といふより言葉がなかつた。BON VOYAGE! その折母校の多數の先生方にも御國にかゝれて本當に懐しかつた。急に中學生に立戻つたやうな氣がした。時に十八日には僕は是非行く。君もだね。

七月十日

P R 生

Calligraphy of the characters '为武' (Wei Wu) in a bold, expressive style. The characters are surrounded by several smaller inscriptions and seals, including the name '王羲之' (Wang Xizhi) and the date '昭和二年' (Showa 2nd year, 1927).

Handwritten document in Chinese characters, likely a letter or a list. The text is dense and appears to be a collection of names or items, possibly related to a historical record or a personal correspondence. The handwriting is in a traditional style, and the document is somewhat aged and stained.

謝安石
謝安石
謝安石
謝安石
謝安石

關西學生會
黑田俊一

於京都には
三月五日
三月五日

[illegible]

